



特集

## 第91回 箱根駅伝

# 頂点への再出発

2015年1月2日・3日に行われた第91回東京箱根間往復大学駅伝競走。連覇を目指した今大会は総合3位に終わった。優勝を逃したとはいえハイレベルなレース展開の中での3位は、価値ある成績だ。しかし、彼らはこれを「完敗」と表現した。

この完敗から彼らが掲げた「頂点への再出発」に込められた選手や監督の思いを、本学卒業生で陸上関連雑誌などのライターとして活躍する石井安里さん(2001年3月社会学部卒)に描いてもらった。



### 力を出し切れず、無念の3位

レース後の東京・大手町は、例年とは違った空気に包まれていた。目指してきた連覇を逃したのだから、もちろん笑顔はない。涙を流している選手がいたのは、準優勝だった4年前や2年前と同じ光景だった。しかし、どこか違って見えたのは、悲壮感がなかったからだろう。下を向いている時間などない。選手たちの瞳や表情からは、強い決意が感じ取れた。

第91回箱根駅伝は、青山学院大の圧勝に終わった。東洋大は往路3位、復路4位で総合3位。11月の全日本大学駅伝より1つ順位を上げたが、箱根駅伝では7年ぶりに、優勝にも、準優勝にも届かず。青山学院大とは11分55秒の大差がついた。

東洋大が3年前の第88回大会で優勝したときの10時間51分36秒は、従来の大会記録を8分15秒も更新する異次元のレベルで、「10年先をいく記録」と言われた。それが今回の青山学院大は10時間49分27秒で、さらに先をいった。また、青山学院大の5区山上りを走った神野大地は、第88回大会の柏原竜二(現・富士通)をも超えたのだ。

誰も想像していなかった、衝撃の展開だった。まして、柏原の圧倒的な強さを間近で見てきた東洋大陣営からすれば、わずか3年で彼を上回る選手が出てくるとは思わなかっただろう。しかし、酒井俊幸監督も、3年生エースの服部勇馬も、「そう決めつけていた時点で負けていた」と脱帽した。

酒井監督は、パーフェクトな駅伝をした青山学院大の強さを認めながらも、「東洋大らしさがなく、完全に力を出し切れませんでした」と悔やんだ。副キャプテンであり、前回8区で区間賞を獲得

した高久龍(4年)がケガで欠場したことも響いたが、メンバー入りした選手たちも、近年の東洋大に根付いてきた攻めの走りができなかった。

また、「その1秒をけずりだせ」をチーム・スローガンに掲げてきたが、服部勇馬が「自分を含め、ほとんどの区間がラストで失速したところに、今季のチームの課題が表れていたと思います」と振り返ったように、最後の最後まで1秒をけずりだす走りが見られなかった。

### 王座奪還へ、変革の1年が始まる

残念な結果ではあったが、酒井監督はよく、「負けた後は変革できる。良い意味で変えていけることも多い」と話している。勝つに越したことはないが、勝ち続けることは簡単ではない。敗戦から学ぶことも多いのだ。

王座奪還へのリスタートは、例年以上に早かった。新キャプテンに服部勇馬、副キャプテンに上村和生(3年)を据え、1年間の反省と敗因の分析を迅速に行った。

「寮生活を見直し、質も上げました。チームとしての連携を強化し、下級生がより競技に集中できる環境を作っていききたい。すでに、新たな取り組みを始めています。芯の部分は崩さずに、幅広く、専門的なトレーニングを取り入れていききたいと思います」

酒井監督の言葉からは、少しずつ何かが動き始めていることが伝わってくる。

今回の敗因の1つを、服部勇馬は「下級生への配慮が足りなかったこと」と挙げた。優勝した時は、強い結束力と部員全員の総合力で戦っていた。服部ら新4年生は、箱根駅伝後に話し合い、「横のつながりだけでなく、縦のつながりのあるチームにしていこう」と誓った。

昨年度の優勝は、全日本大学駅伝後の2ヶ月で“縦のつながり”を見直したことが大きかった。同級生同士の横のつながりは自然と生まれるものだが、大切なのは先輩・後輩の縦のつながり。服部勇馬は「4年生と3年生といった、学年の近い者同士だけでなく、4年生と2年生、1年生がつながっていけるようにしたい」と話し、下級生とも積極的にコミュニケーションを図っていく。

そしてもう1つ、今季は経験不足も課題だった。昨年度までチームを引っ張ってきた選手たちが卒業し、流れを変えられる柱が減ったことから、育成の年と位置付けた。鍛錬の夏合宿を経て、秋には新戦力が台頭したものの、10月の出雲駅伝が台風で中止になるなど、未経験者の実戦の場がなかった。キャプテンの田口雅也(4年)が、「これまでの東洋大は初出場の選手でも結果を残してきましたが、今回は経験不足の影響が出ました」と振り返ったように、未経験者の力をうまく引き出すことができなかった。

箱根駅伝が終わってからは、これまで出場したことのなかった大会にも積極的に参加。主力選手が一層高い目標を持って取り組んでいる一方で、中間層の選手たちが多くのレースを経験することで、互いに競争し合い、成長していくチームに変わるはずだ。

新チームのテーマは、“頂点への再出発”に決まった。服部勇馬が思いついたキーワードを仲間たちに話したところ、それは共通の意志だったという。そして、東洋大の良い伝統を継承しながらも、新たなことに挑戦していこうという方針は、監督と選手に共通している。

これからの1年も、決して平坦な道のりではないだろう。どこかで壁にぶつかるかもしれない。だが、1年後に鉄紺が再び輝くときを楽しみに待ちたい。



第91回 箱根駅伝

レースを振り返る

10区間の展開と10名の出場選手のコメントからレースを振り返る。箱根連覇という強い思いで臨んだ今大会。真価を問われた彼らにしか語れない思いが、ここにある。「●●」は、東洋大チームが「次のステップに向けて最も大切だと思うこと」を表現してもらった。今はもう、それぞれ次のステージを見据えている。



1区 大手町～鶴見 21.3 km



田口 雅也  
経済学科4年

走行4位：区間4位  
区間タイム／ 01：02：12

スタートより先頭位置につけた田口。中盤まで大きな先頭集団を形成したままレースが進む中、15km過ぎに青山学院大が仕掛けると、田口もその後に続く。トップ争いは東洋大、駒澤大、青山学院大、明治大の4校に。中継所まで約600mのところ駒澤大が一気にスパートをかけ、徐々に差を広げられ、トップと12秒差の4位で2区へ。

**選手コメント**  
3年連続の1区は、毎年プレッシャーとの戦いで慣れることはなかった。区間賞を目指していたが、最後の詰めが甘く離された。しかし、レースの流れは作れたと思う。主将として、他の選手の動きを見て積極的に声をかけるよう心がけた。また1年次から高い目標を持つ先輩たちに囲まれ、成長でき、4年生みんなが支えてくれたおかげで1年間やってこれた。そして自分の意識が変われれば強くなれると学んだので、後輩には東洋大の名に誇りを持って精進してほしい。

**「成長」**

2区 鶴見～戸塚 23.1 km



服部 勇馬  
経済学科3年

走行1位：区間1位  
区間タイム／ 01：07：32

2年連続エース区間を任された服部(勇)。5km手前でトップの駒澤大を捉え、並走を続ける。19km地点、一度は離されかけたが一気にギアを上げ、引き離しにかかる。中継所へ向け、苦しい表情に変わるが必死に腕を振る。服部は順位を3つあげる区間賞の走りをみせ、1位で上村へ繋ぐ。2位駒澤大、青山学院大と2秒差、4位明治大とは19秒差。

**選手コメント**  
走り出してから、駒澤大・村山選手しか見ていなかった。昨年とのタイム差では1分以上縮められたが、後続を2秒しか離すことができず、ラスト3kmの失速に悔が残る。今年は、チームの一体感を作り上げ、下級生の台頭を手助けすることがレベルアップにつながると思う。そのためにチームメイト一人ひとりとコミュニケーションをとり、変化に気付き、的確にアドバイスができるかが重要。箱根で総合優勝、そして東京オリンピックに向けて、大事な1年にしていきたい。

**「改革」**

10区 鶴見～大手町 23.0 km



淀川 弦太  
経済学科4年

走行3位：区間5位  
区間タイム／ 01：10：29

最終区を走るの4年の淀川。襷をうけ、ペースを上げて1.5km付近で3位明治大に追いつく。ひたりと後ろについて走り、一気に引き離すタイミングを計る。酒井監督から「ペースが遅い。駒澤大に追いつけないぞ」と声がかかると明治大を一気に引き離し、3位に順位を上げて2位駒澤大を猛追する。惜しくも駒澤大には届かなかったものの、3位でチームメンバーが待ち受けるゴールテープへと飛び込んだ。

**選手コメント**  
最後の駅伝なのでやるしかなかった。レース中監督の声が聞こえ、明治大は絶対抜こうと思集中して走ったので、ゴールテープを切った瞬間はほっとした。この学年のメンバーに出会えてよかった。大学での陸上競技を振り返って、陸上で強くなることを学んだ。後輩たちには、さらに記録を塗り替えていき、これからも悔いのないように陸上を楽しんでほしい。

**「強さ」**

9区 戸塚～鶴見 23.1 km



寺内 将人  
健康スポーツ学科3年

走行4位：区間9位  
区間タイム／ 01：10：27

9区を任されたのは、初の箱根となる3年の寺内。必死に前を走る駒澤大を追いかけられるも、徐々に差が広がりはじめ。終盤まで順位をキープするが、20.5km付近で明治大に追いつかれ4位に順位を落とす。しかし、離されまいと後ろに食らいつき、3位明治大から5秒差で最終区の淀川へ。トップ青山学院大11分29秒差、2位駒澤大1分33秒差、3位明治大5秒差。

**選手コメント**  
自分の走りが全くできず、本当に出場しただけの大会となり、情けなくて、悔しい気持ちだった。そして、最後の最後まで4年生に助けをもらい、上級生の自覚が足りないと感じた。いよいよ最上級生となるが、服部ばかりに頼らず、中間層がしっかりと力をつけていくことで、チームを支えていきたい。また個人としては、口だけで終わらず、行動や結果で示していきたい。

**「有言実行」**

4区 平塚～小田原 18.5 km



櫻岡 駿  
経済学科2年

走行4位：区間4位  
区間タイム／ 00：55：15

4区は箱根初出場の櫻岡。3秒差で前を走る青山学院大を追いかける。しかし、区間新記録ペースで走る先頭集団にその差を広げられてしまう苦しい展開に。それでも最後は力を振り絞りスパートをかけ、トップとは1分36秒差で5区の五郎谷に襷が託された。5位早稲田大には2分44秒と差をつけた。

**選手コメント**  
初めての箱根で感じたのは、沿道の声援が他のレースとは全く違うこと。無心で襷を受け取り、粘りの走りを心がけたが、自分の走りには速さも積極性も足りず課題が多い結果となった。全日本、箱根と経験して自分の目標が高くなった。学年が上がると、主力としての役割を果たしていく必要がある。これからは、走りチームを引っ張っていききたい。目標は、インカレでの入賞など、学生トップレベルに食い込んでいくこと。個人がより高い目標を持つチームにし、来年は箱根優勝を奪還、強い東洋大を見せたい。

**「意識改革」**

3区 戸塚～平塚 21.4 km



上村 和生  
経済学科3年

走行4位：区間6位  
区間タイム／ 01：03：34

当日エントリー変更により3区を任された上村。駒澤大、青山学院大とのトップ争いを繰り広げた。駒澤大のスパートに上村はついていけず、明治大に抜かれ、後続の青山学院大に追いつかれてしまう。酒井監督からの言葉を受け、険しい表情を浮かべながらも懸命な走りをみせ、トップと52秒差の4位で4区へ繋ぐ。前を走る2位明治大と34秒、3位青山学院大とは3秒差。

**選手コメント**  
1、2区が良い流れで襷を繋いでできてくれたので、必ずトップで4区に渡すという気持ちで走った。しかし、駒澤大の揺さぶりに耐えられず8km地点で離れてしまった。監督からは「海岸線に出てからが勝負だ」と言われていたが、そこまで保つスピード、スタミナが残っていなかったのが悔やまれる。副キャプテンとして、勇馬と一緒にチームを引っ張っていくことになる。縦と横のつながり、スタッフとのつながりがしっかりしたチームを作っていきたい。

**「連携強化」**

5区 小田原～芦ノ湖 23.2 km



五郎谷 俊  
経済学科4年

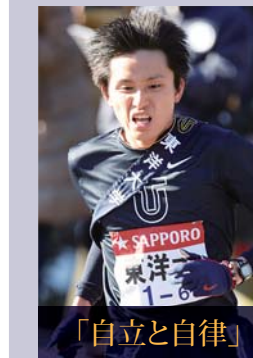
走行3位：区間11位  
区間タイム／ 01：22：14

5区山上がりは4年の五郎谷に任された。4位で襷を受け、落ち着いたペースで追走する。先頭争いは、青山学院大が区間新記録のペースで駒澤大を抜き去りトップに。五郎谷はゴール手前で、アクシデントに見舞われた駒澤大を抜き、3位で芦ノ湖のゴールテープを切った。1位青山学院大と6分49秒差、2位明治大とは1分50秒差で翌日の復路スタートとなる。

**選手コメント**  
箱根駅伝は、自分ひとりで行っているのではない。多くの人の助けや支えがあり、5区を走ることができた。そして、たくさんの思いが入っている襷を1秒でも早くゴールに運ぶため、レース中はとにかく前の選手に追い付いて差を縮めようと思死だった。特に、ラスト2kmは非常に苦しく、もがきながら走った。大学での陸上経験から「勝つこと、負けることの重要性」を学んだ。後輩には、自分自身をよく知り、自分なりの走りのリズムを掴んでほしい。

**「自身を知る事」**

6区 芦ノ湖～小田原 20.8 km



高橋 尚弥  
電気電子情報工学科3年

走行4位：区間8位  
区間タイム／ 01：00：01

箱根デビュー戦となった高橋は、快調なペースで山を下る。9km通過で区間新を上回るハイペースで前の2チームを追う。しかし、16km付近からペースが落ち、後続の駒澤大とデッドヒートを繰り広げるが中継所手前で離される。4位で区・服部弾馬へ。

**選手コメント**  
中盤までは予定通りのペースで走ることができた。前半の走りは、突っ込みすぎたわけではなく、そのままのペースで後半30秒を縮める予定だったが、自分の実力のなさが、そのまま結果となり悔しい。箱根初出場でかなりのプレッシャーを感じたが、沿道の方の応援のおかげで襷をつなぐことができた。次は最上級生としての自覚を持ち、競技面でしっかり結果を残してチームを引っ張っていける選手になりたい。そして、縦と横のつながりを重視したチームを作り、来年の箱根駅伝で優勝する!

**「自立と自律」**

8区 平塚～戸塚 21.4 km



今井 憲久  
経済学科4年

走行3位：区間6位  
区間タイム／ 01：06：03

8区は、4年生の今井。襷を受けすぐに駒澤大の前に出る。中盤まで駒澤大と並走し、トップを追いかける。16kmで駒澤大のスパートについていけず、2位駒澤大に31秒差に広げられ、9区・寺内へ。

**選手コメント**  
何が何でも駒澤大に勝つて襷をつなぐ気持ちで走ったが、悔しい結果となった。大学生最後の走りとして、チームに恩返ししたかったが、申し訳ない結果となってしまい本当に悔しい。全日本の後は4年生が中心となってチームがひとつになるようまとめてきた。チームメイトに支えてもらい、何とかここまでできた。最後の1年間は、特に最上級生としての悩みが多かったが、学年がひとつつになれたことが本当に大きな出来事であり、幸せを感じた。人生は良いことだけではない。辛いときに頑張れる人間こそ、本当に強い人間だと知った。

**「原点回帰」**

7区 小田原～平塚 21.3 km



服部 弾馬  
経済学科2年

走行3位：区間3位  
区間タイム／ 01：03：35

2年連続7区を任された服部(弾)。往路2区で区間賞の走りをみせた兄・勇馬に刺激を受け、駒澤大と並走して明治大を猛追する。19km付近で明治大を捉え、熾烈な2位争いに。中継所手前で駒澤大に離されるも、最後まで粘りみせた。トップとは8分34秒とさらに広がるが、2位駒澤大と13秒差、4位明治大に13秒差で8区へ繋ぐ。

**選手コメント**  
自分のレースを振り返って、点数を付けるなら40点。ラストで駒澤大・西山選手に離されてしまい、自分が流れを変えなければいけないところで、逆に流れを悪くしてしまった。しかし、体調が万全ではないなか、最低限まとめられたと思う。3年生として、チームのことも考えながら、走り引っ張っていききたい。今年はトラックシーズンから記録を狙う。自分は言うことを聞かない後輩だったが、4年生にたくさん指導していただいたことを生かして、先輩方が達成できなかった目標を自分たちが成し遂げたい。

**「自覚」**